（兼題）

「蜆」　富田　蘭水　選

佳　句

活力へ朝一杯のしじみ汁　あきら
しじみ汁湯気の向こうも幸せそ　博子
自己主張下手な蜆の二割引　敬子
浄化するしじみも僕も砂を吐く　淞丘
飲み過ぎた朝 食卓で待つ蜆　ちかし

人

山陰に暮らし蜆を友とする　竹治ちかし

地

しじみ汁蜆ご飯は母の味　今岡　健柳

天

環境が整い蜆日本一　吉川らんまん

軸　吟

蜆まで環境浄化叫んでる　富田　蘭水

（兼題）

「競う」　銭山　昌枝　選

佳　句

競っても若さと美貌には勝てぬ　たえこ
競いあい峠をおりた今が旬　美江子
競っても競わなくてもこの辺り　美智子
やみくもに競った昔なつかしい　健柳
一番もビリも拍手に迎えられ　淞丘

人

競う度右脳左脳がせめぎ合う　清水美智子

地

ライバルが居るから伸びる新記録　伊藤　寿美

天

団塊の世代に生きて競い合い　竹治ちかし

軸　吟

ライバルが響くと右脳回り出す　銭山　昌枝

（兼題）

「まぶしい」　今岡　健柳　選

佳　句

まぶしさが苦手と笑う月見草　らんまん
日焼けした河童の白い歯が眩し　美智子
釣竿の先に眩しい大夕日　淞丘
まぶしいよ朝日に向いて花謳(うた)う　久子
飲み過ぎた朝はまぶしい陽と出会う　ちかし

人

アルバムのまぶしい人もセピア色　多久和博子

地

わけありのまぶしい心少し罪　吉川らんまん

天

胸の奥まぶしく残る青春譜　柳楽たえこ

軸　吟

きらきらの制服カバンまぶしいね　今岡　健柳

（席題）

「秋」　竹治ちかし　選

人

待っていた秋が走って来て呉れた　岸　桂子

地

土砂降りの雨にも秋の匂いする　岸　桂子

天

秋の味食べて命を笑わせる　伊藤　玲子

軸　吟

秋の荷も来なくて遠い里となる　竹治ちかし